

聖学院大学人文学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科：16単位

日本文化学科：20単位

児童学科：20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	児童学科
1	異文化理解	1	4	小川 隆夫	埼玉県小学校教諭	公立小学校の教諭として勤務し多くの外国人ALT (Assistant Language Teacher) と共に仕事を行った。退職後は英国に留学し、帰国後、会社を立ち上げ外国人社員を雇用したことから異文化理解に関する実務経験を積んだ。小学校教諭として多くの外国人ALTと働いた経験と自らの会社で外国人社員を雇用していた経験をもとに異文化コミュニケーションについて言及し、異文化理解の観点から理論的・実践的知識を教授する。 異文化を理解し多様な文化的背景を持った人々と交流する体験を通して、異文化交流を行うことで文化の多様性に対する自らの視点が拓かれて行くことを実感し、異文化交流の意義を理解する。英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化について基本的な事項を知り、世界の文化の多様性を踏まえた異文化コミュニケーションの現状と課題を認識し、英語学習が異文化理解に極めて有効であることを体感する。 様々な異文化交流及び摩擦の事例に学び、文化が人々の生活や関わりらに及ぼす影響を考察しながら、英語を含む外国語やその背景にある文化の多様性を知る。また、様々な異文化適応の方法論に学び、多様な文化的背景をもった人同士が分かり合う可能性と方法を知る。さらに、異文化コミュニケーションの現状及び課題について学ぶと共に、異文化理解の英語学習への応用方法を考察する。	○		
2	現代英文法	1	4	村岡 有香	私立高校教諭	私立高校に専任教諭（英語）として勤務し、実務経験を積んだ。高校教員時代に積んだ様々な経験をもとに、教育現場の実態について言及し、幅広い観点から理論的・実践的知識を教授する。 授業のテーマ及び到達目標 中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学の知識を身に付けることをテーマに学ぶ。特に、英文法について学び、中学校・高等学校でいかに教えるかを念頭におきながら、各々の文法事項について検討する。併せて、文法事項の特性に応じて、話し言葉と書き言葉による言語形式の違いと英語の音声の仕組みや、英語の歴史的変遷についても関連付け、英文法の理解を深める。 英語の音声の仕組みと、英語の歴史的変遷及び国際共通語としての英語の特性を概観したのちに、それらの特性と関連付けながら、中学校及び高等学校で扱う文法事項について、項目ごとに扱う。各文法項目に関しては、中学校や高等学校での指導を念頭に置きながら、文法学習の重要事項の理論と演習の方法論を検討する。音声の仕組みを教授することを意識した声に出して読む実践や、国際共通語であることを踏まえたコミュニケーション英文法についても扱う。	○		
3	英語科教育法Ⅰ	1	2	村岡 有香	私立高校教諭	私立高校に専任教諭（英語）として勤務し、実務経験を積んだ。高校教員時代に積んだ様々な経験をもとに、教育現場の実態について言及し、幅広い観点から理論的・実践的知識を教授する。 中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領における外国語（英語）科の目標及び内容を踏まえた授業をテーマに学び、授業実践についての基礎的な考え方や指導方法を理解し、「外国語（英語）科の授業づくり」ができる指導力を身につけることを目標とする。また、中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識及び学習評価の基礎、情報機器及び教材の活用に関する知識と方法を実践しながら身に付ける。 中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領に照らしながら、外国語（英語）科の授業について事例研究を行う。第二言語習得理論、外国語教授法、学習指導要領、指導技術等への理解を深め、理論から実践につなげるために、実際の授業の在り方についても考察する。あわせて、英語科教員として必要とされる英語力を身に付け、学習指導案を作成した上で模擬授業を行う中で、授業内での指導に必要な教室英語を使いこなせる力を培う。	○		
4	英語科教育法Ⅱ	1	2	村岡 有香	私立高校教諭	私立高校に専任教諭として勤務し、実務経験を積んだ。高校教員時代に積んだ様々な経験をもとに、教育現場の実態について言及し、幅広い観点から理論的・実践的知識を教授する。 中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領における外国語（英語）科の目標及び内容を踏まえた授業をテーマに、「英語科教育法Ⅰ」に続いて学び、授業実践についての基礎的な考え方や指導方法を理解し、英語でのインタラクション等「外国語（英語）科の授業づくり」ができる英語力と指導力を身につけることを目標とする。また、中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識及び学習評価の基礎、情報機器及び教材の活用に関する知識と方法を実践しながら身に付ける。 「英語科教育法Ⅰ」で身に付けた知識と方法をもとに、実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等に取組みながら、英語科の実践的な指導力を身に付ける。中高英語教育で求められるコミュニケーション能力の育成のために聞く・話す・読む・書くの四技能を有機的に関連付けながら指導することを旨とする。模擬授業においては教科書を十分理解しながら、実際の授業での配慮事項等を段階的に身に付けることをねらう。あわせて、英語科教員として必要とされる英語力を磨き、学習指導案を作成した上で、英語でのインタラクションを取り入れた模擬授業を行う。	○		

聖学院大学人文学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科：16単位

日本文化学科：20単位

児童学科：20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	児童学科
5	児童英語教育(インターンシップⅠ)	2	2	東 仁美	英語教室講師	外部指導者として小学校外国語活動の指導経験があり、また研修講師として小学校での授業研究の指導をした。外部指導者としての外国語活動の授業をした経験を中心に観察実習の指導をする。小学校英語指導者資格の必修科目である。公立小学校で外国語活動の授業を見学し、小学校英語教育への理解を深める。小学校英語教育の観察実習をする。公立小学校での授業見学のほかに、実習の事前指導がある。授業観察後、毎回実習レポートを提出する。	○		
6	児童英語教育(インターンシップⅡ)	2	2	東 仁美	英語教室講師	外部指導者として小学校外国語活動の指導経験があり、また研修講師として小学校での授業研究の指導をした。外部指導者としての小学校外国語活動での授業実践の経験を中心に授業実習の指導をする。児童英語教育科目の集大成として、英語のみで45分の授業を指導する力をつけていく。児童英語教育の授業実習をする。公立小学校での外国語活動の実習のほかに、指導案作成、教材作り、模擬授業など週2～3回の事前指導がある。事前指導事後指導を含めて60時間の実習を課する。実習までに指導案作成、教材作成、模擬授業などの事前指導を行う。	○		
7	日本史概説A	1	2	阿部 能久	学芸員	博物館に歴史担当の学芸員として勤務し、博物館業務に関する実務経験を積んだ。古文書や古記録等の史料を実際に扱った経験もとに、史料からの正しい情報の引き出し方を伝え、それをもとにした歴史像の構築について教授する。古代から中世にかけての歴史的事実について知識を深め、その背景を考察することにより、歴史を見る目を養うことを目標とする。また、大学が所在する旧武蔵国(現在の埼玉県)の地域史に着目することにより、自分たちの身近な場所の歴史についても理解を深めていきたい。概説Aでは、古代・中世の日本史を対象とする。テキストをもとに、この時代の政治や経済、文化の流れを把握することに努める。特に当該期の旧武蔵国を中心とする関東の状況について、この地の豪族たちの動向を中心にみていく。			○
8	史料読解	1	2	阿部 能久	学芸員	博物館に歴史担当の学芸員として勤務し、博物館業務に関する実務経験を積んだ。古文書や古記録等の史料を実際に扱った経験もとに、史料からの正しい情報の引き出し方を伝え、それをもとにした歴史像の構築について教授する。歴史の研究は、自分の勝手な想像や解釈ではなく、「史料」をもとに行わなければならない。そして「史料」の扱い方や調べ方にも、一定のルールが存在する。この授業では、特に中・近世の「史料」に関する基礎知識や用語について学び、読解力を養うことを目標とする。まず、活字化された中・近世の古文書や古記録をテキストとして、その読解を行う。あわせてその史料が成立した歴史的背景について学ぶ。次に、いわゆる「くずし字」読解のための基礎知識を習得することを目指す。そのうえで、中・近世の古文書の実物について、その写真やコピーをテキストとして読解を行う。			○
9	日本史の研究(中世史特論)	2	2	阿部 能久	学芸員	博物館に歴史担当の学芸員として勤務し、博物館業務に関する実務経験を積んだ。古文書や古記録等の史料を実際に扱った経験もとに、史料からの正しい情報の引き出し方を伝え、それをもとにした歴史像の構築について教授する。日本の中世・近世は武士が政権を担う、まさに「武士の時代」であった。しかし、一口に「武士」といっても、その実態は中世と近世とは大きく異なる。また、中世の武士についても、時代や地域によって、その存在形態は実に多様である。このような中世を代表する存在である武士についての知見を得ることにより、日本の歴史や文化へのより深い理解につなげていきたい。近年の武士研究の目覚ましい進展により、従来の武士のイメージは大きく変容している。講義ではこのような研究成果を紹介するとともに、武士の誕生や発展の背景にあるものについて解説していく。			○
10	歴史と文化	2	4	阿部 能久	学芸員	博物館に歴史担当の学芸員として勤務し、博物館業務に関する実務経験を積んだ。古文書や古記録等の史料を実際に扱った経験もとに、史料からの正しい情報の引き出し方を伝え、それをもとにした歴史像の構築について教授する。近代以前の日本社会において、政治権力と寺社を中心とする宗教勢力とは、密接不可分の関係にあった。また、仏教美術を中心とする芸術作品も、多くがそのような関係の中から制作・利用されていった。この講義では前近代の日本における政治・宗教・美術の関係性に着目し、そこからどのようなものが生み出され、また、それが社会にいかなる影響をおよぼしたのかについて考えていきたい。特に日本中世における仏教諸宗や僧侶たちの動向を手がかりに、その時々の権力者や民衆が宗教に何を求めていたのか、そして、仏像をはじめとする優れた仏教美術作品が制作された背景にどのような願いが込められていたのかについて解説していく。			○

聖学院大学人文学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科：16単位

日本文化学科：20単位

児童学科：20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	児童学科
11	歴史と社会	2	4	阿部 能久	学芸員	博物館に歴史担当の学芸員として勤務し、博物館業務に関する実務経験を積んだ。古文書や古記録等の史料を実際に扱った経験もに、史料からの正しい情報の引き出し方を伝え、それをもとにした歴史像の構築について教授する。日本の中世・近世社会においては、多くの歴史的な事実から、さまざまな伝承が生み出された。そのうちのいくつかは現代にまで伝わり、史実をしるぐ影響を社会に及ぼし続けている。この講義では著名な古典作品を題材として、伝承が社会に与える影響について知ることを目標とする。『平家物語』や『太平記』、『忠臣蔵』といった古典作品を題材として、史実との比較から伝承が生み出される背景や形成過程、その変遷についてみていく。また、後世の社会や文化に与えた影響についても考察する。		○	
12	図書館情報学概論	2	2	塩崎 亮	国立国会図書館	国立国会図書館および国立情報学研究所において図書館・情報サービス業務全般に従事（16年間）。図書館・情報サービスの現場で実際に必要となる知識・スキルを具体的に教示。図書館の概要を理解するとともに、記録された情報を探し、整理した上で人に伝える力を育む。司書資格取得を目指す受講者にとっては、司書資格取得科目の導入として、今後学ぶ諸科目に関する基礎知識をもえる。文部科学省令で定められた科目内容に即し、図書館の社会的意義、機能、法制度、歴史・現状・今後の課題、公立図書館以外の各種図書館の概要、出版流通業界との関係等について取り上げ、社会における図書館の全体像を把握できる内容とする。		○	
13	キリスト教文化論A	3	2	柳田 洋夫	日本基督教団伝道師・牧師	プロテスタント・キリスト教の教会の牧師として、いくつかの教会で職務に携わった。上記の経験を生かして、キリスト教をはじめとする宗教一般について、基礎的知識また観点を伝える。世界の歴史や現状を知るために、宗教についてのある程度の理解が必要不可欠であることは言うまでもない。また、日本人は「無宗教」であるというが、ほんとうにそうであるのか。この授業においては、宗教学的アプローチを援用しつつ、宗教とは何かについての概略的知見を深めることを目標とする。宗教一般についての基本的理解を得るとともに、特にキリスト教と文化との関連について学び考察する。		○	○
14	キリスト教文化論B	3	2	柳田 洋夫	日本基督教団伝道師・牧師	プロテスタント・キリスト教の教会の牧師として、いくつかの教会で職務に携わった。上記の経験を生かして、キリスト教をはじめとする宗教一般について、基礎的知識また観点を伝える。代表的キリスト者に即して、キリスト教の日本文化・社会に対する影響や貢献について理解と考察を深めることを目標とする。これまでのキリスト教をめぐる学びをふまえつつ、日本の文化・社会の発展に貢献したキリスト者たちについて学ぶ。		○	○
15	社会	1	2	川瀬 敏行	埼玉県小学校教諭	埼玉県小学校教員の勤務経験及び小学校「社会科」指導における研究実践の実務経験。小学校「社会科」について研究・実践・指導した実務経験をもとに、社会科授業の指導における基本の観点から理論的・実践的知識を教授する。小学校社会科の目標や学習内容を中心に学び、小学校教員免許取得で求められる基本的なことについての理解を目標とする。小学校社会科の目標や各学年の学習内容・指導事例研究を中心に取り上げる。そのほか、学習指導要領と社会科、社会科教育の歩み、小・中学校社会科の関連、社会科指導の基礎と課題等についても研究する。			○
16	算数	1	2	杉山 晶子	青森県小学校教諭	青森県において小学校教諭として勤務し、小学校学習指導要領（平成29年告示）算数編に基づき、算数科の指導内容に関した授業構想の仕方や教材開発等について実務経験を積んだ。小学校算数科についての実務経験をもとに、「小学校学習指導要領（平成29年告示）算数編」の基本的理念を理解させると共に、小学校現場の実態を踏まえ、授業構想の仕方や教材開発等について、具体的な活動や体験、実践事例等をおして学ばせることで、算数科における理論的知識や学習指導案・授業構想についての理解を目指す。算数指導のねらいを理解するとともに、基礎的・基本的な知識と技能を習得し実際の指導に活かせるようにする。小学校学習指導要領に準拠した内容を、子どもの概念形成を踏まえて理解できるようにする。教材研究を通して、教材のねらいや授業の進め方を研究し、学校現場に立ったときに自信を持って実践できるように自らの力量を高める。			○

聖学院大学人文学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科：16単位

日本文化学科：20単位

児童学科：20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	児童学科
17	生活	1	2	杉山 晶子	青森県小学校教諭	青森県において小学校教諭として勤務し、小学校学習指導要領（平成29年告示）生活編に基づき、生活科の指導内容に関した授業構想の仕方や教材開発等について実務経験を積んだ。小学校生活科においての実務経験をもとに、「小学校学習指導要領（平成29年告示）生活編」の基本的理念を理解させると共に、小学校現場の実態を踏まえ、授業構想の仕方や教材開発等について、具体的な活動や体験、実践事例等をおして学ばせ、理論的知識と実践的態度の育成を目指す。生活科の目標や学習内容をテーマとして学び、指導のねらいを理解する。とともに、生活科設立(1989年)の経緯とその背景、趣旨について学び、生活科の存在意義（今日的役割）を正しく理解することを目標とする。また、生活科の授業を展開するに当たっての教師の役割、子どもの思いや願いをテーマに学び、子どもの思いや願いを予測することの大切さに気付く感性を養うことも目標とする。小学校学習指導要領をもとに、生活科新設の経緯と趣旨、生活科の目標及び内容構成等についての概要を学ぶ。また、授業の構想の仕方や教材の開発等について、具体的な活動や体験、実践事例等をおして学ぶ。さらに「幼児期の教育」との連携やスタートカリキュラムの重要性についても考察する。			○
18	保育内容総論	1	2	相川 徳孝	私立幼稚園教諭	私立幼稚園に教諭として勤務し、3歳児から5歳児のクラス担任としての実務経験を積んだ。また保育主任としての実務も経験した。社会福祉法人の保育園に保育士として勤務し、0歳児から5歳児のクラスの担任としての実務経験を積んだ。また乳児クラスの主任としての実務も経験した。幼稚園において実際に教育課程や指導計画を立て保育を実践していった経験を活かし、どのように保育の内容を構築し、日々の保育を展開していったかを具体的に伝えていく。また遊びを通しての学びについては実践例を取り上げ説明をしていく。同様に保育士としての経験を活かし、0歳児から2歳児までの保育内容について個々の発達を踏まえて保育を展開していった実践例を取り上げて3歳未満児の保育について説明をしていく。幼児期の特性を踏まえた教育とはどのようなものかを理解し、遊びを通した総合的な学びの在り方と主体的な遊びを展開するための環境を構成する力を身に付ける。また保育を展開するための指導計画の作成方法と具体的な指導の在り方について学ぶ。子どもの姿や保育の評価、情報共有および記録、保育分析・保育改善に情報機器を活用した映像資料が有益であることを理解し、互いに撮影して活用する手法を学ぶ。幼児教育がどのような考えのもとで展開されているのかを理論と具体的な保育の場面から学び、各自が実践してみようを通して身に付けていく。保育とは何か、また遊びを通した幼児の育ちを理解するために映像資料を活用するとともに、情報モラルを踏まえて模擬保育を映像で記録し振り返り等に生かす。			○
19	初等社会科教育法	2	2	川瀬 敏行	埼玉県小学校教諭	埼玉県小学校教員の実務経験との関連：埼玉県小学校教員の勤務経験。研究・実践した実務経験をもとに、社会科授業づくりと指導実践の基本的観点から理論的・実践的知識を教授する。小学校学習指導要領における社会科の目標及び内容を踏まえた授業をテーマに学び、授業実践についての基本的な考え方や指導方法を理解し、「社会科の授業づくり」ができる指導力を身に付けることを目標とする。また、資料の活用方法を身に付け、社会科教材開発の実際も学び、教職を目指す自らの実践的指導力を育成する。「社会」で学んだことを基に、小学校社会科授業事例・指導法を研究するとともに、各自が学習指導案の作成、模擬授業の実践をし、小学校の社会科の授業づくりとその指導について学ぶ。社会科学習指導案作成の基本とポイントについては、学習指導案の構造や指導方法、学習形態の工夫、教材研究の仕方等について理解していく。模擬授業では、各自が作成した学習指導案によって実践、研究していく。その中で、教科書の意義と活用、学年や児童の実態に応じた教師の話し方・板書の工夫、教材・資料の活用、学習評価と方法、基本的な学習ルールの確立、話し合いの仕方・ノート指導、机間指導、問題解決的な学習や体験的な活動を取り入れた指導、ICTの活用等を通して、具体的に社会科授業の実践について学んでいく。			○
20	算数科教育法	2	2	杉山 晶子	青森県小学校教諭	青森県において小学校教諭として勤務し、小学校学習指導要領（平成29年告示）算数編に基づき、算数科の指導法に関する実務経験を積んだ。小学校算数科についての実務経験をもとに、「小学校学習指導要領（平成29年告示）算数編」においての指導内容を踏まえた学習指導案の作成や模擬授業体験、ICT活用等の場をつくる。さらにそれらについてアドバイスしたりディスカッションさせたりすることで、実践的・実感的に学ぶことを目指す。算数指導の基礎・基本を理解し、算数・数学を学習する楽しさやよさを感じるとともに、ICTの活用を通して数学的な見方考え方の意義を理解し、授業実践に結びつけた力を身に付けることを目指す。算数科のねらいを明確に捉えるとともに数学を創る立場から算数科の教材を研究する。授業では、問題解決を通して算数数学を使って考える楽しさや算数数学のよさを感じ、学ぶ意欲を高める授業実践のあり方を身に付けるようにしたいと考えている。同時に、ICTの活用を図り、教材に内在する数学的な見方考え方を捉え直し、模擬授業の実践に結びつける。			○

聖学院大学人文学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科：16単位

日本文化学科：20単位

児童学科：20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修 学年	単 位数	教員氏名	実務経験	授業内容または授業概要	欧 米 文 化 学 科	日 本 文 化 学 科	児 童 学 科
21	生活科教育法	2	2	杉山 晶子	青森県小学校教諭	<p>青森県において小学校教諭として勤務し、小学校学習指導要領（平成29年告示）生活編に基づき、生活科の指導法に関する実務経験を積んだ。小学校生活科についての実務経験をもとに、「小学校学習指導要領（平成29年告示）生活編」における指導内容を踏まえた学習指導案の作成や模擬授業体験等の場をつくる。さらにそれらについてアドバイスしたりディスカッションさせたりすることで、実践的・実感的に学ぶことを目指す。</p> <p>小学校学習指導要領における生活科の目標及び内容を踏まえた授業をテーマに学び、授業実践についての基本的な考え方や指導方法を理解し、「生活科の授業づくり」ができる指導力を身に付けることを目標とする。また、生活科における子どもの学び、教師の役割、子どもの思いや願いを生かした授業等について、自分なりの考察ができるようにする。</p> <p>小学校学習指導要領に照らしながら、生活科の授業について事例研究を行う。いくつかの教材を基に教材研究の手順を理解するとともに、自ら生活科の教材づくりに取り組む。また、子どもの意識の流れに沿った学習指導案の作成や、模擬授業をとおして授業の進め方を実践的に学ぶ。</p>			○
22	知的障害児指導法	2	2	齋藤 一雄	国立大学附属養護学校教諭、同学校副校長（教頭）	<p>国立大学附属養護学校に教諭、副校長（教頭）として勤務し、知的障害児の教育指導に関する実務経験を積んだ。知的障害児の教育指導に当たってきた経験をもとに、知的障害児の実態とその指導について言及し、知的障害児の指導法の観点から理論的・実践的知識を教授する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 知的障害教育の教育課程の編成について基本的なことを理解する。 2) 特別支援学校や特別支援学級の具体的な教育課程編成と指導計画の作成について理解する。 3) 知的障害児を中心に肢体不自由児や病弱児の指導方法について理解する。 4) 指導案の作成や指導方法を学び、授業の評価の基本を理解する。 <p>本授業では、知的障害特別支援学校や知的障害特別支援学級の教育課程編成について理解するとともに、各学部や各指導の形態ごとの指導計画を学ぶことができるように構成している。さらに、具体的な指導案の作成や指導方法についての知識や技能を深めるとともに、事例をとおして個別の指導計画の作成と活用について理解を深めるように構成している。これらをおして、特別支援学校教諭としての実践的指導力の育成を目指す。</p>			○